



えが お

都立城東特別支援学校長
秋本 友美

主体的な学びを支える ～ICTの力～

校長 秋本 友美

2学期に入ってから、可能な限り、各学年・学級を順に回りながら給食を共にしています。給食時ならではの活発なおしゃべり、先生に励まされて（時にはゲーム感覚で）苦手な食べ物に挑戦する姿。さらに・・・先生たちからの「〇〇さんは、△△ができるようになったんだよね～。■■が得意なんだよね～ 校長先生に見てもらおう♪」と、うれしい報告も！

その後続く昼休みも然り。タブレット端末を取り出して、ゲームと一緒にしようと誘ってくれる児童、好きな本を紹介してくれる児童等、学習に向かう姿だけではない、「余暇（自分）の時間」を過ごしている、この時の子供たちはまさに「主体的」で「能動的」です。

「できた！分かった！」は、成長を促すエッセンス。「伝えたい！」も同様です。さらに「伝わった！」の実感をもてることは自信につながります。このスパイラル（好循環）の根幹は、「なんだろう？」と、どんどん深掘りができる（導かれてしまうリスクもありますが）こと。

「ICT 機器」は、**知的好奇心をくすぐる・引き出すツール**であり、「伝えたい」「伝わった」等の**コミュニケーションの代替ツール**でもあります。

①パソコンやタブレットにアプリケーションソフトを入れて調べたり、インターネットを利用して辞典や図書館の役割をもたせるもの⇒「**情報検索様式**」

②教員（Tutor）の働きをパソコンやタブレットが受け持ち、学習者に対して、画面をとおして直接説明や解説をして問いかけたり、問題提起をして回答を求めたりする。画面上で賞賛、激励を与えて自ら確認しながら進めていく⇒「**チュートリアル様式**（個別学習等でよく見られますね）」など取組の一部は、裏面をご覧ください。

生活を豊かに・・・11月から「本を読もう♪」読書月間が始まりました。知的好奇心のくすぐりや、興味関心の広がりだけでなく、学校図書館の利用により、マナーやルールを体得し、いずれは地域の図書館に通い「自分時間」を楽しむ・・・。

まさに「**学びを、地域や社会で生かすこと**」の一例です。さらには、児童・生徒がバーコードで容易に貸し出し手続きができたり、貸し出し状況を把握できたりする（都が導入した図書管理）システムを稼働し、子供たちが主体的に、読書に取り組めるようにしています。

「主体的に」「能動的に」を支える、格好の「ICT 機器」。「リアルとデジタルの融合」を駆使して、学習をそして生活を豊かにしてくれる活用に、今後も取り組んで参ります。



ICT 機器を活用した主体的・対話的で深い学び（小学部の実践）

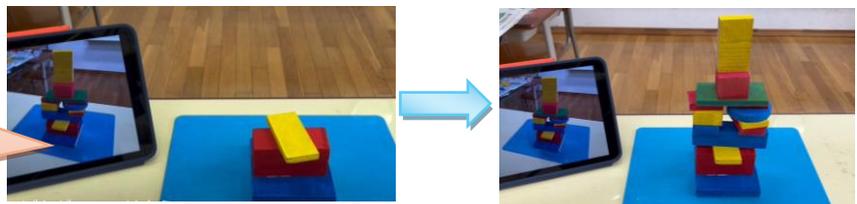
主任教諭 稲積 良

本校では、児童の主体的・対話的で深い学びを促すため、ICT 機器を活用した授業づくりに取り組んでいます。

小学部 6 年生では、図画工作の授業でタブレットを使用し「タワーを作ろう」という単元を実施しました。児童はタワーをイメージして木片を積み、自分らしい表現に挑戦しました。そのタワーをタブレットのカメラアプリを使用し写真を撮りました。一度、積んだ木片はバラバラにし、今度はボンドで固定しながら積み直します。その際に、撮った写真をタブレットで確認しながら、同じように木片を積んで作り直しました。制作後には出来上がった作品の写真をプロジェクターで大きく映し、友達同士で感想を伝え合いました。友達の作品のアイデアや工夫、苦労した点などを知ることができ、さらに制作意欲が高まる機会となりました。

ICT 機器の活用により、児童の意欲やコミュニケーションが自然に引き出され、学びの幅が広がっています。今後も児童の特性に応じた支援を行い、ICT を活かした授業を充実させていきます。

タワーの写真を撮り、自分で画像を確認しながらボンドで接着しました。



ICT 機器を活用した主体的・対話的で深い学び（中学部の実践）

主任教諭 松村 晃

重度・重複学級の自立活動の時間に、身体の動きを感知して音や映像を反応させる学習支援ツールを活用しています。音楽に合わせて身体を動かすと、映像や音に変化され体験型活動ができます。繰り返し行うことで、自発的な身体の動きが増え、「できた」という喜びの表情や声の反応が見られました。また、音や映像への関心が高まり、活動への集中が続く効果が見られました。

知的、自閉症学級では、社会の授業でタブレットを活用した学習活動に取り組んでいます。ゲーム要素のあるアプリを活用することで、地理への関心が高まり、都道府県名や位置を覚えることにつながりました。グループで協力して進めることで、他者とのコミュニケーションが増えました。

ICT 機器を通じた学びは、単なる支援ツールや情報収集ツールにとどまらず、生徒の可能性を引き出す「学びのきっかけ」や「体験的に学ぶ」姿勢を育てる ICT 実践となっています。



学習支援ツール



ゲーム要素のある学習アプリ

【えがお後記】 東京都では、学び方・教え方・働き方を改革するために、ICT 環境整備と利活用を図る「TOKYO スマート・スクール・プロジェクト」を推進しています。本校でも、今年度の学校経営計画に記載した「特色ある教育活動の促進及び児童・生徒の学びの充実」の1つとして、『ICT 機器等を効果的に活用した全ての学習活動における「主体的、対話的で深い学び」の実践』を掲げています。今回の「学校だより」で、本校での取組の一端を御覧のいただけると幸いです。今後も ICT 機器を有効に活用し、子供たちの学びを深めていきたいと考えています。

副校長 富樫 忠